

資料 1



第19回 長岡京市地域公共交通会議

令和2年2月5日（水）午後2時15分～

長岡京市役所 第一委員会室



アウトライン

- はっぴいバスの事業評価
- 東部バスの事業評価
- はっぴいバスの今後について

2

● はっぴいバスの事業評価

- 東部バスの事業評価
- はっぴいバスの今後について

3

評価の視点（2項目+α）



- | | | |
|---------|---|--------|
| 1 事業の目的 | } | 利用の面から |
| 2 利用状況 | | |
| ※ 収支状況 | } | 経費の面から |



4

はっぴいバスの新たな事業指標



項目	指標	備考
事業の目的	公共交通空白地域の解消	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査、祝日運行等
利用状況	利用状況（北コース）	1便あたりの乗車人員 15.0（人/便）
	利用状況（西コース）	1便あたりの乗車人員 15.0（人/便）
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）	前年度収支率と比較して改善されたか

5

1. 事業の目的に関する評価



- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

①公共交通空白地域等の解消

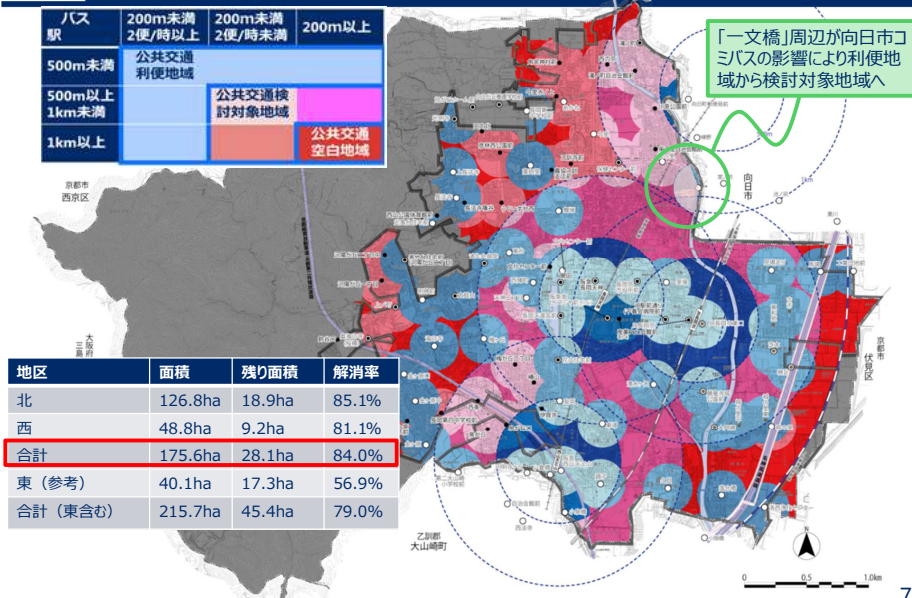
②多様な世代の外出支援

- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

事業目的	評価
公共交通空白地域等の解消	事業前後で交通空白地域の解消度を比較（以後、変化がないか定期的に検証）
多様な世代の外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 はっぴいバスがどの程度貢献しているか検証

6

①公共交通空白地域等の解消



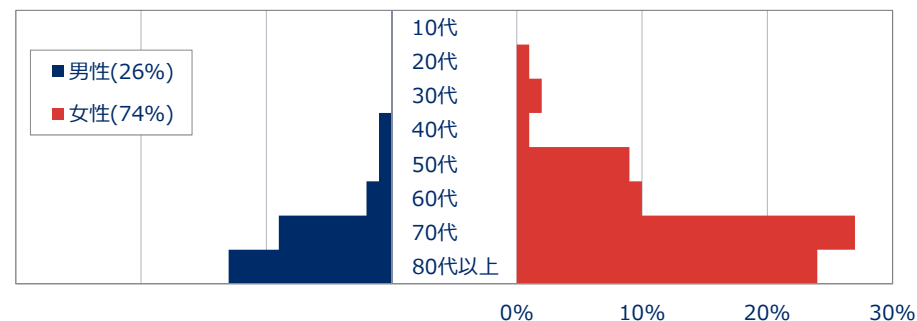
7

②多様な世代の外出支援 （アンケート結果から）



- はっぴいバス利用者にアンケートを実施
- ・アンケート実施日：令和元年11/14(木)
- ・回答者：100人（各コース50人ずつ）

乗車客属性



○回答者は女性のほうが多く、60歳以上の方が85%を占める。

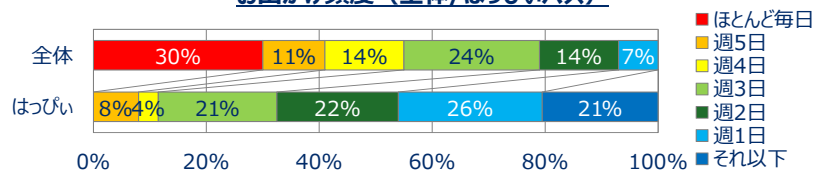
8

②多様な世代の外出支援

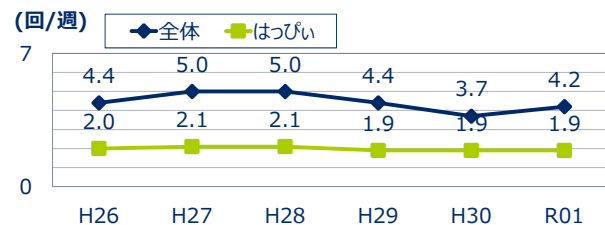
(アンケート結果から)



お出かけ頻度（全体/はっぴいバス）



お出かけ頻度遷移



○お出かけ頻度は昨年度よりも多く4.2（回/週）、はっぴいバス利用回数は1.9（回/週）で例年同等であった。

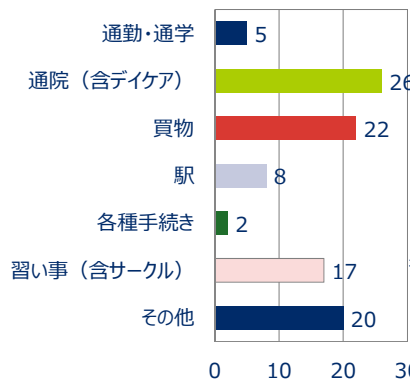
9

②多様な世代の外出支援

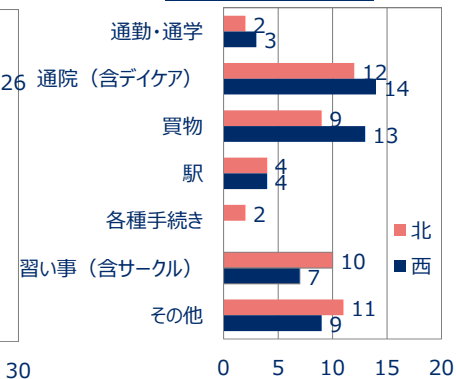
(アンケート結果から)



利用目的(SA)



利用目的【コース別】



○「通院」と「買物」が約1/4で最も多く、「習い事」「その他（光明寺が多かった）」と続いている。

○コース別では有意な差は見られない。

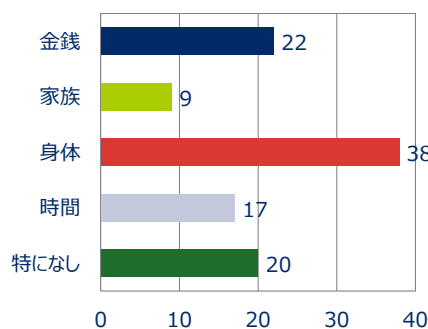
10

②多様な世代の外出支援

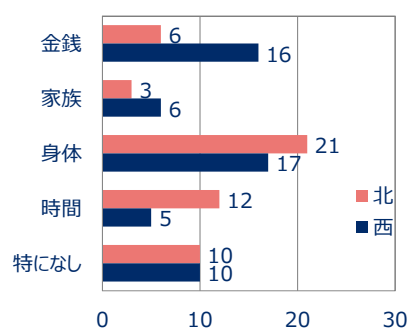
(アンケート結果から)



負担種別(n=100,MA106)



負担種別【コース別】



○はっぴいバスが無くなった場合の負担として、「身体」が最も多く、次いで「金銭」となっている。

○西コースで「金銭」が、北コースでは「時間」がそれぞれ他のコースよりも多くなっている。

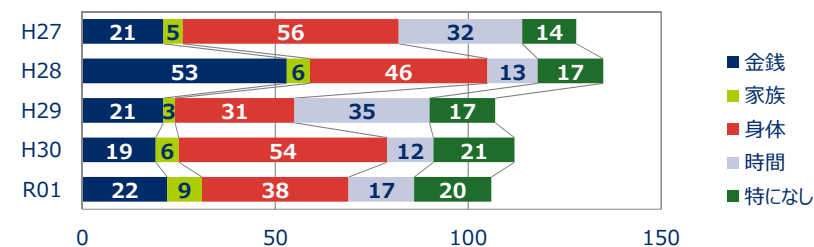
11

②多様な世代の外出支援

(アンケート結果から)



はっぴいバスが無くなった場合の負担遷移



○例年、はっぴいバスが無くなった場合の負担について聞いているが、H28で「金銭」が非常に多い、H27,29で「時間」が多い、H29で「身体」が少ないなど、年度によってバラつきがある。

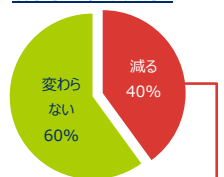
○昨年度は夏季にアンケートを実施したため「身体」を挙げた利用者が多かったが、今年度は少なくなっている。

12

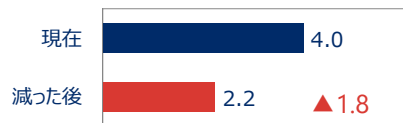
②多様な世代の外出支援

(アンケート結果から)

お出かけの変化

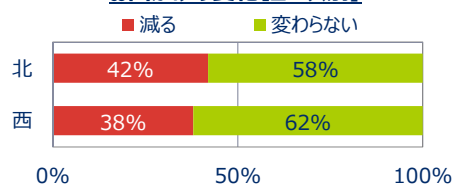


お出かけ回数の変化

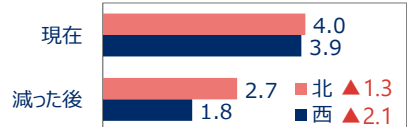


(回/週)

お出かけの変化【コース別】



お出かけ回数の変化【コース別】



(回/週)

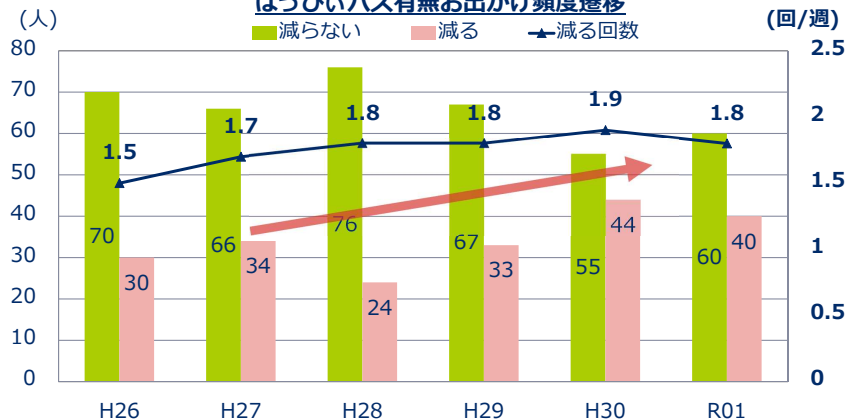
○ 4割の方がはっぴいバスが無くなった場合にお出かけ回数が減ると答えており、西コースのほうが減る回数が多かった。

13

②多様な世代の外出支援

(アンケート結果から)

はっぴいバス有無お出かけ頻度推移



○ はっぴいバスが無くなった場合、週に約2回お出かけが減る。

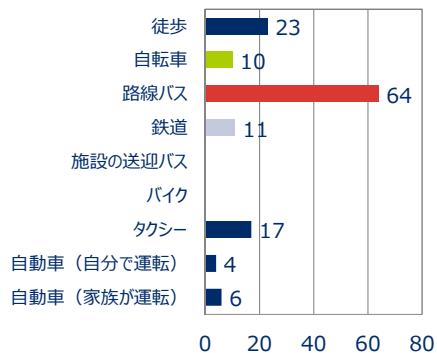
○ お出かけ回数が減ると回答した割合は増加傾向にある。

14

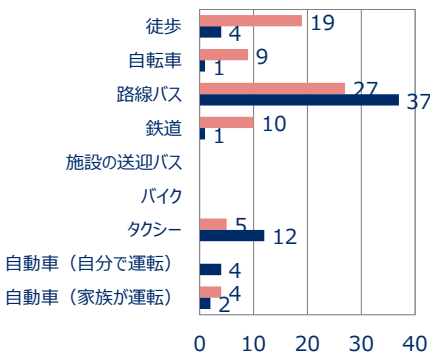
②多様な世代の外出支援

(アンケート結果から)

代替手段 (n=100, MA135)



代替手段【コース別】



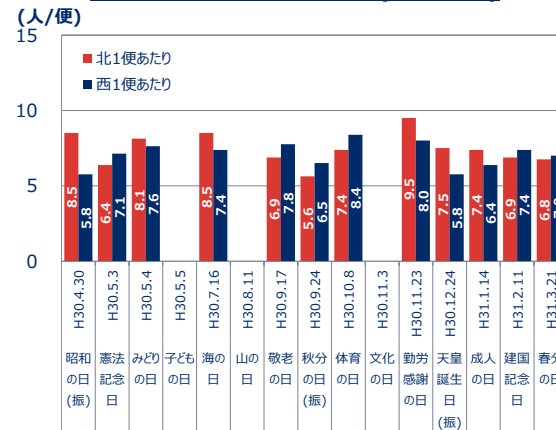
○ 代替手段として6割以上の方が「路線バス」を挙げており、西コースで特に多い。

○ 一方で、北コースでは「徒歩」「自転車」の割合が多くなっている。

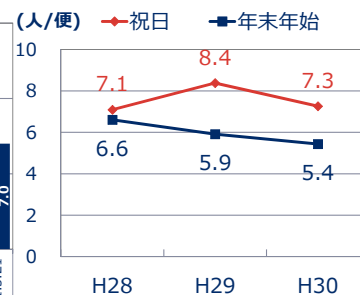
15

②多様な世代の外出支援【祝日運行】

平成30年度 祝日運行まとめ (7.3人/便)



祝日運行等利用者数の推移



※年末年始特別運行 平成21年度～
※祝日運行 平成28年度～

○ 平成28年度から試験的に祝日運行を行っているが、平日と比較すると大幅に少ない状況。→車内広告等で更なる周知を図る。

16

はっぴいバス祝日運行のお知らせ

(月)~(金)なら

祝日も走っています!!

土日以外は走ってるよ!!

平成28年度から試験的に祝日運行を実施していますが、平日の半分程度のご利用にとどまっています。
この機会にぜひご利用ください!!



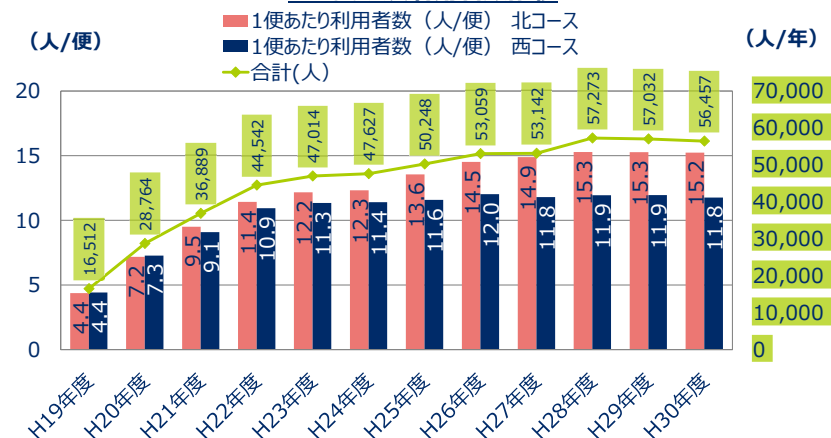
お問合せ：長岡京市役所 交通政策課

TEL 075-955-3160

17

2. 利用状況に関する評価

はっぴいバス利用者数推移



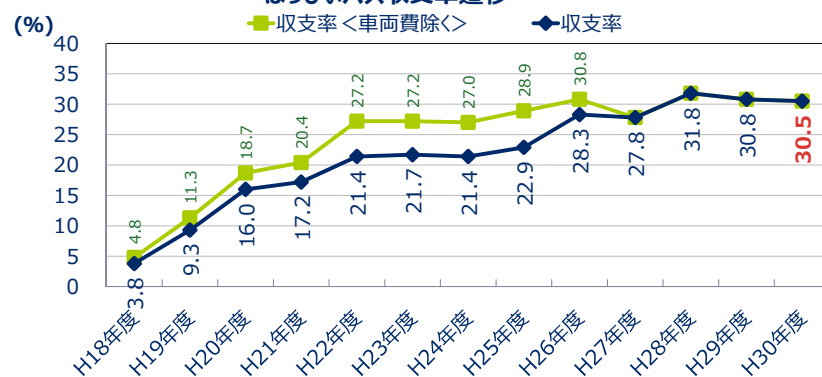
○平成30年度の利用者数は56,457人(前年から▲575人、運行日数同じ)で、微減となっている。

○北コースは目標の15人/便を満たしているが、西コースは満たしていない。

18

<参考> 収支状況に関する評価

はっぴいバス収支率遷移



○利用者数とともに収支率は微減となっている。

○今年度から車両更新費用のため、収支率が下がる。

19

はっぴいバスの事業評価

項目	指標	平成30年度	判定
事業の目的	公共交通空白地域の解消	解消率 84.0%	○
	多様な世代の外出支援	週4.2回 のお出かけのうち、 週1.9回 のお出かけではっぴいバスを利用	○
利用状況	利用状況 (北) 1便あたりの乗車人員15.0 (人/便)	15.2人 > 15.0人	○
	利用状況 (西) 1便あたりの乗車人員15.0 (人/便)	11.8人 < 15.0人	×
<参考指標> 収支状況	収支率 (全体) 前年度収支率と比較して改善されたか	30.5% < 30.8%	—

20



- はっぴいバスの事業評価

● 東部バスの事業評価

- はっぴいバスの今後について

21

東部バスの事業指標



項目	指標	備考
事業の目的	通勤定期利用者数	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査
利用状況	利用状況	総利用者数
<参考指標> 収支状況	収支率	前年度収支率と比較して改善されたか

22

1. 事業の目的に関する評価



- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

- ①通勤利用
- ②多様な世代の外出支援

- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

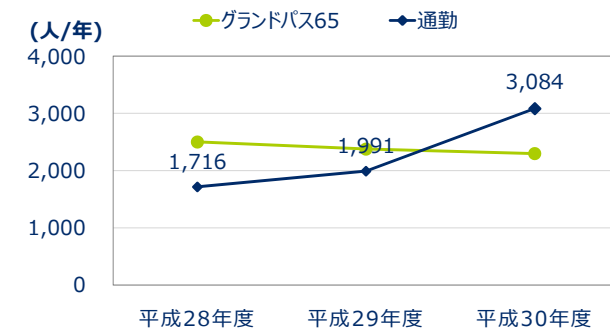
事業目的	評価
通勤利用	通勤定期券利用者数
多様な世代の外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 東部バスがどの程度貢献しているか検証

23

①通勤定期利用者数



通勤・グランドバス65利用者の推移



○ルート変更（平成28年8月～）等により東部バスが定着したのか、通勤利用者数は増加傾向にある。

○グランドバス65（阪急バスの高齢者向けフリー定期券）利用者はやや減少傾向である。

24

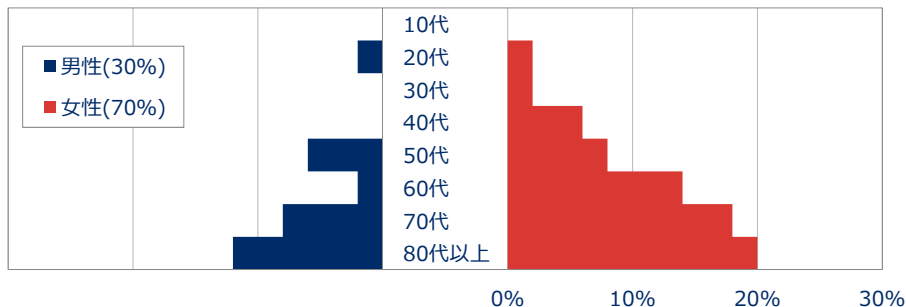
②多様な世代の外出支援

(アンケート結果から)



- 東部バス利用者にアンケートを実施（通勤時間帯を除く）
- ・アンケート実施日：令和元年11/19(火)
- ・回答者：50人（城の里循環28人、東和苑循環22人）

乗車客属性



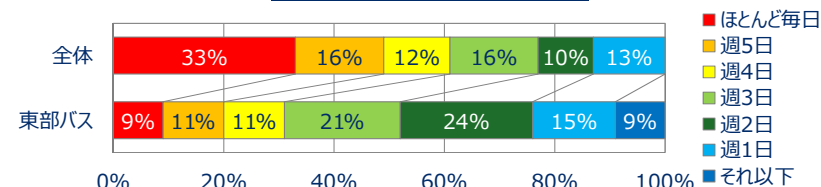
○回答者は女性のほうが多く、60歳以上の方が74%を占める。

②多様な世代の外出支援

(アンケート結果から)



お出かけ頻度【全体/東部バス】



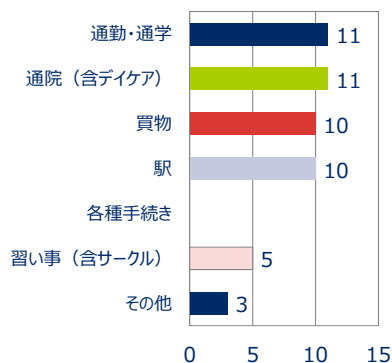
○お出かけ頻度4.4（回/週）に対して東部バス利用回数は2.9（回/週）であり、お出かけの2/3はバスを利用している。

②多様な世代の外出支援

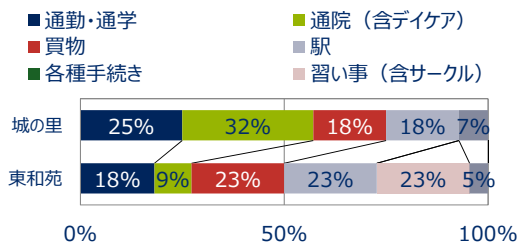
(アンケート結果から)



利用目的



利用目的【循環別】



○通勤・通学、通院、買い物、駅の利用が多い。

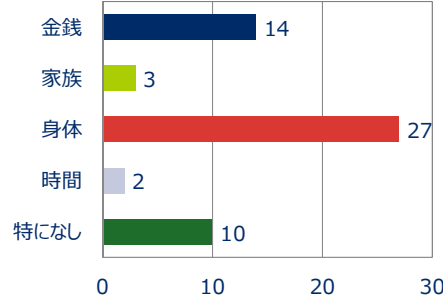
○城の里循環で通院が多く、東和苑循環で習い事が多くなっている。

②多様な世代の外出支援

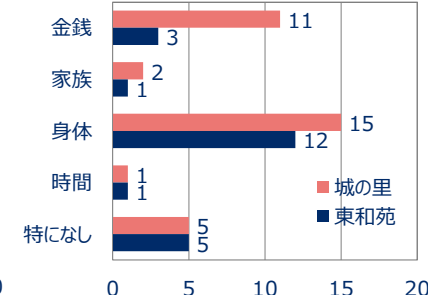
(アンケート結果から)



負担種別(n=50,MA56)



負担種別【循環別】



○東部バスがなくなった場合の負担として、「身体」が最も多く、次いで「金銭」となっている。

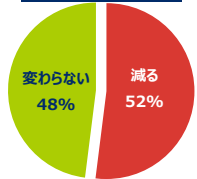
○特に城の里循環で「金銭」の回答が多いが、東和苑循環よりも駅から遠く、移動に徒歩や自転車ではなくタクシーを選択する方が多いと推察される。

②多様な世代の外出支援

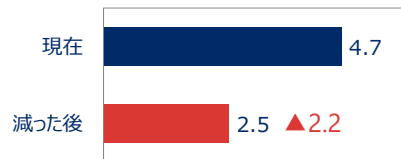
(アンケート結果から)



お出かけの変化

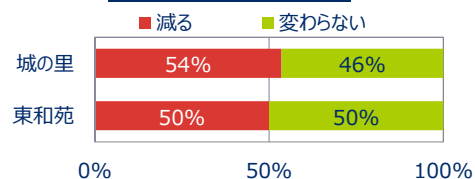


お出かけ回数の変化

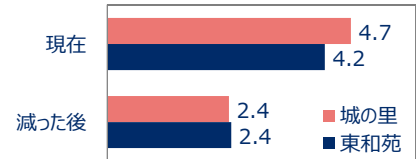


(回/週)

お出かけの変化【循環別】



お出かけ回数の変化【循環別】



0

6

(回/週)

○5割の方が東部バスが無くなった場合にお出かけ回数が減少する。

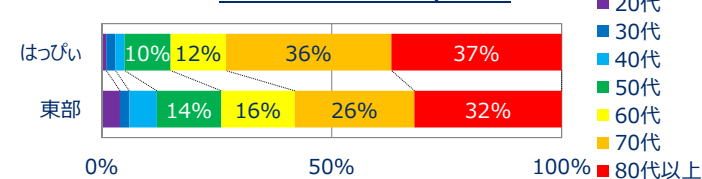
○循環別では有意な差は見られない。

29

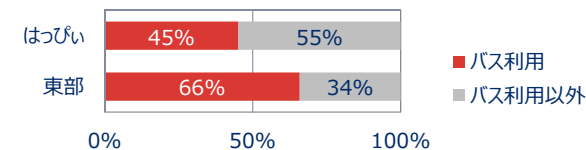
はっぴいバスと東部バスの比較



利用者年代【はっぴい/東部】



バス利用の割合【はっぴい/東部】



○東部バスのほうが利用者層が若い。(60歳未満の割合がはっぴいバスで15%に対し、東部バスで22%)

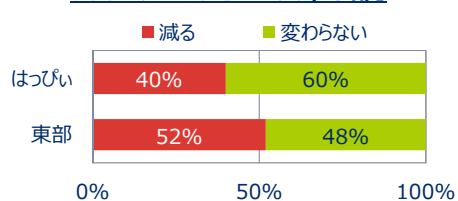
○東部バスのほうがバス利用頻度が高い結果となったが、通勤利用が多いことや運行頻度が高いためと考えられる。

30

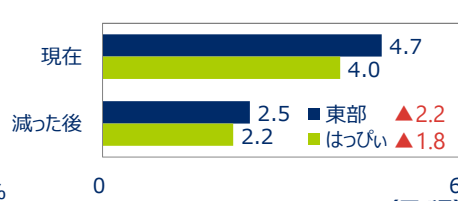
はっぴいバスと東部バスの比較



お出かけの変化【はっぴい/東部】



お出かけ回数減少【はっぴい/東部】



(回/週)

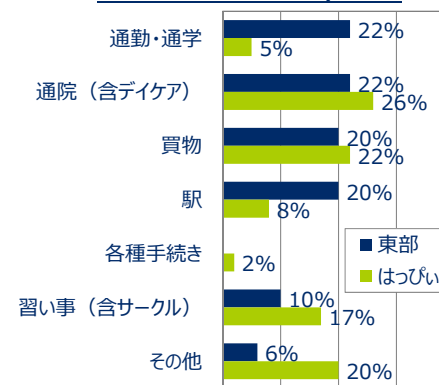
○東部バスのほうがはっぴいバスよりもお出かけ回数が減ると答えた割合が高く、また、減る回数が多い。

31

はっぴいバスと東部バスの比較

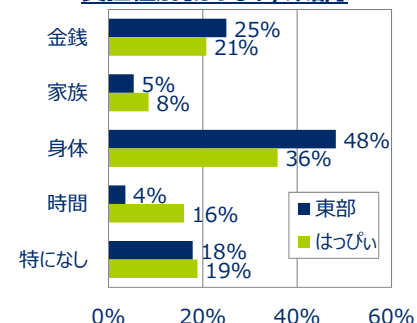


お出かけ目的【はっぴい/東部】



0% 10% 20% 30% 40%

負担種別【はっぴい/東部】



○東部バスのほうが「通勤・通学」や「駅」を目的にする方が多い。

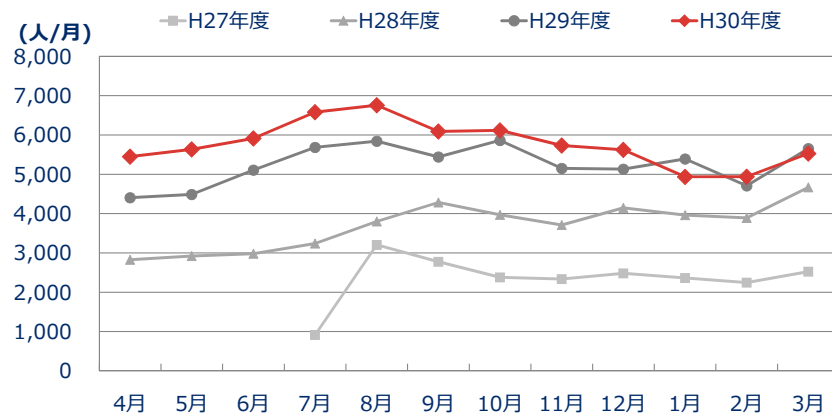
○東部バスのほうが「身体」の負担が増えるとした方が多く、はっぴいバスのほうが「時間」の負担が増えるとした方が多い。

32

2. 利用状況の評価



総利用者数推移



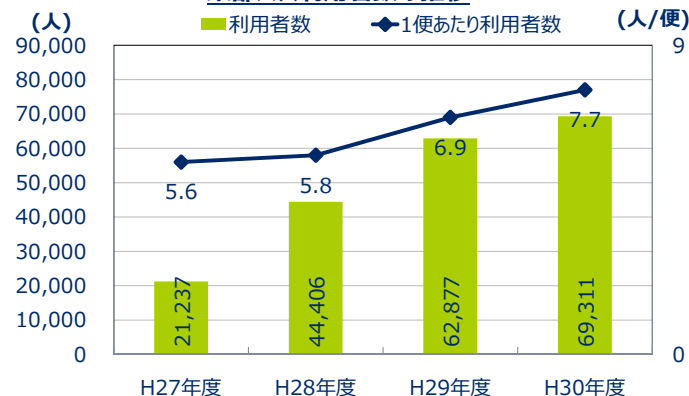
○平成30年度は1月、3月を除き前年を上回る利用者があった。

33

2. 利用状況の評価



東部バス利用者数の推移



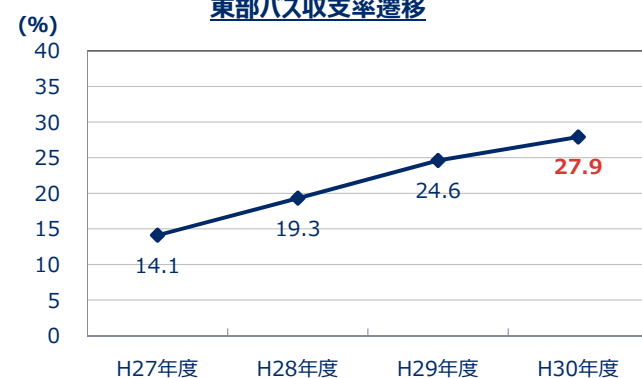
○利用者数は年々増加しているが、目標としていた10人/便には満たない。

34

<参考> 収支状況に関する評価



東部バス収支率遷移



○収支率は年々上がってきており、はっぴいバスと同等の収支率である。

35

東部バスの事業評価



項目	指標	平成30年度	判定
事業の目的	通勤定期利用者数	3,084人/年 > 1,991人/年	○
	多様な世代の外出支援	通勤利用者が多いのもあり、50代以下の利用がはっぴいバスよりも多い。	○
利用状況	利用状況 総利用者数	69,311人 > 62,877人	○
<参考指標> 収支状況	収支率 前年度収支率と比較して改善されたか	27.9% > 24.6%	—

36

- はっぴいバスの事業評価

- 東部バスの事業評価

- はっぴいバスの今後について

37

はっぴいバスの今後について

地域

移転の済生会京都府病院、床面積4割増へ 5月着工、22年秋開院目指す

1/6京都新聞

2020年1月6日 11:30



阪急西山天王山駅近くに移転する済生会京都府病院の完成予想図（高病院提供）

阪急西山天王山駅近くの京都府長岡京市下海印寺に移転する済生会京都府病院は、5月に新病院の建設を始める。乙訓地域の中核病院として、救急や周産期、手術などの医療を充実させて地域の医療機関との連携も強化し、2022年秋の開院を目指す。

計画によると、新病院は、地上7階建てで、延べ床面積が現病院（長岡京市今里）の4割増しとなる約2万3800平方メートル。現在と同じ25診療科で、病床数は現在から12床減の288床とした。敷地内に整備する別棟には、乙訓医師会の事務所や乙訓休日応急診療所が移転する方向で調整を進めている。

新病院の整備では、救急センターを拡充して患者の受け入れ機能を強化し、隣接する予定の乙訓休日応急診療所では対応が難しい症例にも迅速に対応する。産婦人科と小児科は一体的に整備し、個室を増やす。このほか、患者の負担の少ない内視鏡手術など高度な専門医療や、人間ドックをはじめとした健診業務、災害拠点病院としての機能なども充実させるという。

建設工事に先立って、同病院は主に農地だった用地約1万4600平方メートルを2019年6月に取得した。これまでに計3回の住民説明会も開催した。

新病院は、西山天王山駅とは外来診療室のある2階が歩道橋で直結され、現病院より交通の利便性が増す。

10月に就任した吉田恵正院長は「『出生』から『みどり』まで切れ目なく質の高い医療を関係機関と連携して提供し、地域の発展に貢献したい」と話している。

○令和2年度

各コースの病院へのアクセスや、病院立寄りの是非について検討



○令和3年度

路線バスのルートやダイヤ変更をふまえたはっぴいバスルートを決定



○令和4年度 秋

済生会京都府病院開院

38